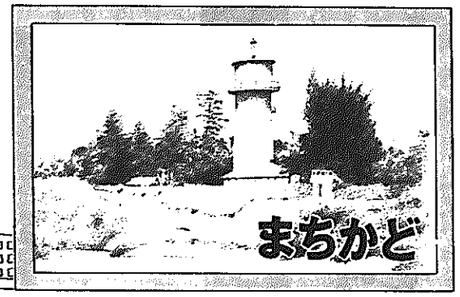
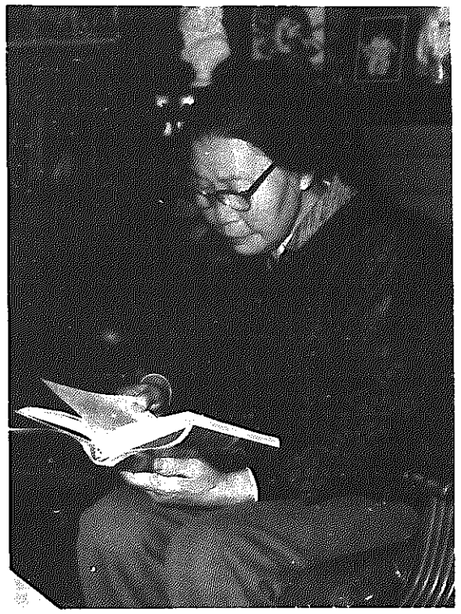


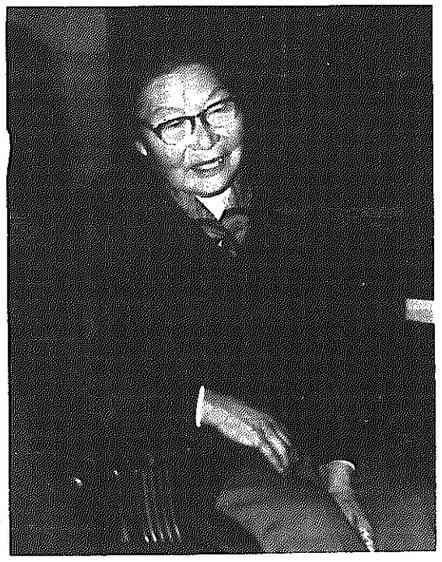
こんにちは

喜寿を迎えた読書好きなおばあちゃん

白野チエさん（新飯田川前甲・無職・76歳）

色紙は、3月25日の定例会の席で贈られました


いろいろな本との出合いを楽しみにしている白野さん


「若い人たちが引っ張ってくれるので、本当にありがたい」と語る

このほど、新飯田きさらぎ読書会（代表＝枝村文子さん）では、会員の白野さんが今年で喜寿を迎えられたことから、仲間の感謝の気持ちをと、会員全員の名前を記した色紙を贈り、祝福しました。

白野さんは、家族がみんな本好きだったのに影響されて、子供のころから本に親しんできたそうで、この会が昭和四十一年に結成された時からのメンバーです。白野さんは「昔からよく読んでいたのは歴史物で、特に平安・奈良時代のころのものが好きです。毎日、夜寝る時には枕元に本を置いておき、夜中に目が覚めると読んでいますよ。昔は今と違って本が手に入りにくく、また、読みたい本を全部買うわけにもいきませんでした。でも、この会ができたおかげで、いろいろな本と出合えるし、大変助かっています」と話します。

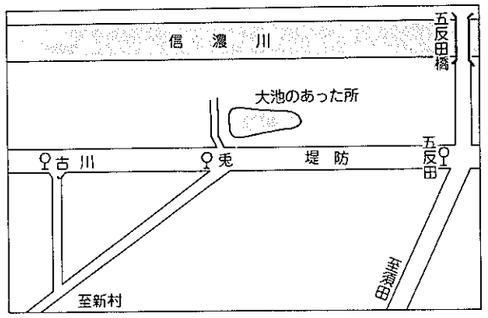
また、白野さんは、同会で発行している文集「和風」のほか「文芸しろね」にも、創刊当初から毎回随筆を投稿しています。他の会員たちは、「旅行先でもメモをとって調べたりするなど、なかなか研究熱心な人です。また、記憶力も大変よくて、新飯田の歴史にも詳しく、それらが随筆に生かされています」と語ってくれました。会員みんなが白野さんを目標にしているそうです。

今回の仲間からの祝福に「皆さんの心のこもったプレゼントを贈ってくれた気持ちを思うと、何よりも尊いと思います。色紙は早速家に飾り、夜、昼と眺めていますが、いつも皆さんが私を見てくれているようで大変幸せです」と感謝の気持ちを語る白野さんです。

私の思い出 昔のわが街

たらいに乗って菱の実取りに

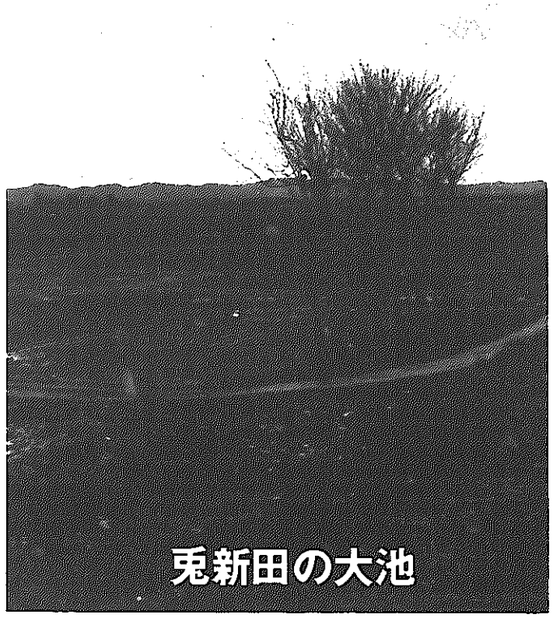
語る人 渡辺和義さん＝（四六）（菱潟新田）



春になると、この辺では桃の花が咲き乱れ、向う側には五反田橋、そのずっと後ろには粟ケ岳、守門などの山々がそびえ、私はその風景が大好きでした。私が子供のころは、この場所に四反半ほどの広さの池があって、そこでよく遊んだものです。

その池は釣り場として最高で、こいやふな、小えびなどがよく取れましたよ。また、夏になると、菱の実がいっぱいなるので、大きなたらいに乗って、いかりに似たかぎのついた縄を投げて取ったりしていました。そして、冬には一面に氷が張り、格好のスケート場となりました。

この池は私が生まれるずっと前からあり、ここの土手を築堤するために掘ってできた池だと聞いています。しかし、三十八年に埋め立てられ、田んぼになりました。


兎新田の大池

白根人物伝

★真柄九龍（まがらくりゅう）

鷲ノ木の医家、通称は主水・維新亨または曲江陳人と号した。新発田領大庄屋六郎左衛門の弟である。

長崎で蘭人に外科を学んだ。また五十嵐浚明について画を学び、山東京伝、十返舎一九と交わり、戯文を作った。

晩年、新津市荻川村川口に移り姓を真田と改めた。

（北越詩話、新津市誌から）

★真保一貫（しんぽいっかん）

庄瀬の里正で、天保十二年（一八四一年）一月十六日に生まれ、十六歳で家を継いだ。

明治元年、戊辰の役に官軍の使いとなり、賊軍に捕えられ拷問を受けたが、顔色を変えず、ついに逃れて帰った。新発田藩主に官軍への献金を勧めた。

後に里正となり、苗字帯刀を許された。また、士籍に列しられた。明治四十年十月十日に六十七歳で亡くなった。（中蒲原郡誌から）

「私の思い出 昔のわが街」欄へあなたの思い出の場所を。連絡は企画財政課広報広聴係へ。